

五日目を終えて、4横綱が2敗以上を喫して優勝争いは混沌としてきたが、大関西神門が横綱へのプレッシャーを感じさせない安定した強さをみせていて、まだ前半戦が終わったところだが優勝候補一番手だろう。

これに対抗するのが関脇鬼ヶ嶽。ただ、横綱陣も千代鈴以外はまだ2敗で十分優勝の可能性は残っており、中盤、後半戦がどのような展開になるかが楽しみである。

今回の本場所とは2月23日開催の予定。乞うご期待。(錦風)

十両は大石丸が盤石の5連勝

十両も五日目までを取り終えて、初日から3連勝の好スタートを切った7名は四日目に伊勢旭、若雲山、黒夢心、続く五日目には伊勢旭、磯堂、千丈岳、日向藤が敗れた。

中日前の前半戦で早くも全勝は大石丸ただひとりとなり、その全勝の大石丸を1敗で9後半戦に進む展開となった。

大石丸が今場所入幕が叶わなかった鬱憤を晴らすかの様に、先場所からの好調さを維持して絶好調でただひとり5連勝の活躍。

四日目の寶蔵戦では立ち合いから圧倒的に押し込んで、土俵際の相手のどの輪をものどめせずそのまま強く押し出しに破ると、続く五日目には伊勢之山部屋に移籍した兄弟子の伊勢旭を、立ち合いたて抵抗させる事なく鮮やかに寄り切った。

5連勝としたが追従する力士とはまだ星の差ひとつと油断はできないが、このままの勢いを維持して優勝を手土産に入幕といきたい



大石丸○(寄り切り)●伊勢旭



大石丸○(押し出し)●寶蔵

ところだろう。

さらに昇進を狙う同部屋的首柱も、実力者駒波にベテラン角武蔵を退け連勝して二日目に敗れた1敗を守って大石丸を追う。

下位では香具山部屋期待の黒夢心が全勝優勝の千丈岳に土を付けて1敗を守り好調さをアピールしている。

星の差ひとつで先頭を走る大石丸が、その星の差以上に頭ひとつリードといったところか。次は中日を迎え後半戦に進むが、大石丸がさらに白星を重ね先頭を引っ張っていくのか。

相星同士の取り組みが多々組まれるであろう中日と七日目。果たしてこの混戦から抜け出すのは誰か？十両の土俵もまだまだ目が離せない。(香具山)



千丈岳●(押し倒し)○黒夢心

幕下は逆昇進、栃尾山がまさかの黒星

初日を迎えた幕下。今場所は159回と160回場所に幕下デビューを果たした7人が自力岳を筆頭に東4枚目の風神丸までが上位を占める番付となった。

この中から関取昇進を掴むのは誰になるのか。千秋楽まで熾烈な争いが展開されることだろう。

勝ち超せば昇進となる東筆頭に上がってきた自力岳。今や紙相撲界を引っ張る存在の日根部屋の中で弟子の大石丸や首柱らに出世では先を越されてしまっていたが、ようやく十両を狙える位置まで番付を上げてきた。

こちらにも新十両をかける警若との対戦となり、左を差した警若が寄り切りで勝って初日白星発進とした。

これまで4場所すべて幕下では負け越し知らずの巨鵬と達子波。幕下では初めての対戦だったが巨鵬が達子波に右攻めを許さず寄り切りで勝利。巨鵬が昇進に向け一歩前進した。

育成会の中から期待されていた大松戸部屋の出雲山がようやく関取を狙えるところまで躍進してきた。

2場所連続で負け越した後松田山から改名し、それが吉と出たのか、その後2場所を勝ち越し。今場所でのチャンスを一発でものちに、灘吉山以来の関取誕生となるか注目される。

羅維伝との一番を寄り倒して退けて幸先よスタートを切った。

そして今場所も優勝争いをするであろうと思われた逆青雲と栃尾山の錦風コンビ。しかし初日はともに予想外となる黒星スタート。この敗戦により昇進争いと優勝争いが混沌となっていくような気配だ。

新幕下組では朝日松部屋の大勢が一気に東1枚目に上がり最上位。他に強久根、伊勢之里、太刀錦、綱櫻と続き、再幕下は里の若と千曲海の2人。



強久根●(下手投げ)○伊勢里



千曲海○(押し倒し)●里の若



出雲山○(寄り倒し)●羅維伝

三段目、序の口

三段目では逆岩、鑑島、逆本、笹熊、如月、把若寿ら有力力士が順当に白星をあげた。

とりわけ序の口、序二段と連続優勝し、無敗で三段目に駆け上がった逆本は、幕下経験

もある鹿ノ郷を寄り切り、初土俵以来の連勝を11に伸ばした。



鹿ノ郷●(寄り切り)○逆本



若播磨○(寄り切り)●耀池田

また、生駒山、御嶽灘が十両から陥落のタイミングで引退したことによる優遇策として三段目尻に付出された若播磨と耀池田との一番は若播磨が寄り切った初日を飾った。

序二段注目目の一番は共に先場所負け越して序二段に落ちた森倉と福笑の一番。その実力は既に幕下級と言われる両者だけに事実上優勝決定戦とも思われる対戦だったが、森倉が寄り切った福笑を下した。

付出し勢の中での好取組は加古川部屋の花丸と秋田部屋の新進鋭の両部屋期待の新弟子の対戦は浪の花が上手い前捌きで体力に勝る権現丸を制した。

序の口では桐室部屋若樁に注目。久々に気合の入った若手の登場に、三段目の若播磨と共に名門復活の期待が寄せられる。

序の口に留まった大ベテランの桃乃浜だったが、残念ながら初日は黒星のスタートとなった。(鹿)



若樁○(寄り切り)●神吉



権現丸●(寄り切り)○浪の花



森倉○(寄り切り)●福笑